

志村 陽子

Installation Art

Performance Art

鈴木 つな

時を紡ぐ

インスタレーションとパフォーマンス

観覧無料

YCC県民文化ホール ロビー吹き抜け部

Installation Art

2020年12月1日(火)～2021年1月6日(水)

[観覧時間] 10:00～17:30

催し物が行われる日は催し物終了まで

Performance Art

クリスマス1日だけのパフォーマンス

12月25日(金) 19:00～

『2020 一兆シー』

音源制作／山本 雅一

ピアノ／山本かおり

ヴァイオリン／田中 愛子

志村陽子 Shimura Yoko -Installation artist-

私は、土地や建物に宿る記憶や何かの気配、生命の息吹の断片のようなものを感じる空間をインスタレーションで表現することを試んでいます。

今回、文化ホールの赤色の絨毯と赤色の柱の空間に神聖な白色の麻の球を浮遊させます。古来より赤色は魔除けや病気の退治に、麻は魔除けとして縁起物に使われてきました。

2020年、社会全体が経験したのではない不安に包まれました。赤い空間に浮かぶ白い球は、正体がかみきれないものとの共存を余儀なくされ、経験したのではない不安の中で死生観を求めてさまよう私たち自身の姿です。ふわふわと揺れる白い球の下でCOVID-19の怒りが鎮まることを祈ります。

【主な個展】

- 2019 「TSUKUYOMI-月読草-」 会館50周年記念アート 京都府立文化芸術会館、京都
「志村陽子展-森の囁き-」 ふじ・紙のアートミュージアム、静岡
- 2018 「水が紡ぐ物語2018」 i Gallery DC、山梨
- 2017 「水が紡ぐ物語」 Gallery CLASS、奈良
- 2015 「花葉-水の緒さがし-」 三彩洞画廊、山梨
- 2014 「花葉-遙か遠い昔のこと」 おいでやギャラリー、山梨
- 2013 「Japanese Paper Artist Exhibits Work at MHS」 MHS、アメリカ
- 2007 「DYER-オランダの風」 KNOCK ON WOODS、オランダ

【主なグループ展】

- 2019 「ふたぎの杜 木津川アート2020プレイベント」 恭仁神社、京都
- 2018 「魔法の美術館」 山梨県立美術館、山梨
「木津川アート2018」 市民賞受賞 土阪邸、京都
- 2017 「中日現代美術展」 53美術館、中国
「みなび展」ワークショップ担当 山梨県立美術館、山梨
- 2016 「西宮船坂ビエンナーレ」 船坂里山学校、兵庫
- 2015 「紙のアートフェスティバル2015」 特別賞受賞 富士芸術村、静岡
「モンゴル日本文化交流展」 Sant Asar art Gallery、モンゴル
- 2014 「木津川アート2014」 市長賞受賞 西ノ宮神社、京都
- 2013 「第75回山梨美術協会展」 須藤賞受賞 山梨県立美術館、山梨
「中之条ビエンナーレ2013」 四万温泉、群馬
「Woman of Whimzy Show featuring Japanese Artist」 Gallery on Main、アメリカ
- 2011 「中之条ビエンナーレ2011」 伊参スタジオ公園、群馬

その他多数

鈴木つな Tuna Suzuki -Performer-

私が初めて山梨県民文化ホールの舞台に立った時、ホールのスロープの赤い絨毯は輝くような赤でした。私が数十年間踊りを続けていくうちに、ずっしりと重みのある赤へと変化し、そこを歩くたびに、開演を待つ胸躍る感覚と、踊りに向き合うほどに湧き上がるどろりとした感情を思い起こさせます。その赤の魔力から解き放たれるために、空に浮かぶ志村陽子作品の白い球の浮力を借りて踊りたいと思います。魂を形どったような白い球ひとつひとつに、「あの時の私」を重ね合わせ、対話していきます。

展示空間に現れる白い空と赤い地の間に立つと、見慣れたホールのスロープは異世界に変わります。立っている場所は同じなのに、目に飛び込む景色が変わること。それは2020年という特異な年に重ね合わせることもできます。私自身は何も変わっていないはずなのに、見えない何かは知らぬ間に私に影響し、私はほんの小さな兆しの表れとしてそれに気づきます。大きな現象として巻き起こる前の兆しをどれだけ拾えるのかは、昨今の私のテーマでもあります。

今回は3人の力のある音楽家にもお願いしました。山本雅一のサウンドは、私の中に沈んでしまった過去のイメージを感触や匂いといった実感まで思い起こさせてくれますし、山本おりのピアノと田中愛子のバイオリンは、サン・サンスの「死の舞踏」を奏でながら、私が野放図な踊り手とならないように道を敷いてくれることと思います。

精一杯、「生きている今」を受け止めた後で向かう先に何があるのか、私のごくごく個人的な感覚の動きが、見てくださる方の心の一片に通ずるものがあれば、作品として昇華するのではないかと、と思っています。

【プロフィール】

始めてバレエシューズをはいた幼い日から長い年月が経ち、私の踊りはモダンダンスからコンテンポラリーダンスへ、そしてベリーダンスへ変化していき、今なお変化の途中です。

4歳の子供と老いゆく両親と共に生活する中で、命が育つ輝きに満ちたエネルギーと命が尽きる前に発する壮絶なエネルギーとを同時に浴びながら、これまで以上に命の生きゆく「凄み」を肌で感じる毎日を過ごしています。

自分の人生の中で、「生きていくこと」と「踊ること」の間にある差を限りなく無くしたい、という気持ちが徐々に強くなり、これまで本番の日のためにあったその他の時間を大切に過ごし始めると、表現方法も、表現したいことも変わってくるのを感じています。

ベリーダンススタジオ (Tsun BellyDance Troupe) 主宰
ピラティススタジオ (CORE LABO.) 主宰
整体師

志村 陽子 Installation Art 鈴木 つな Performance Art 時 を 紡ぐ

インスタレーションとパフォーマンス

観覧無料

YCC県民文化ホール ロビー吹き抜け部

2020年12月1日(火)~2021年1月6日(水)

Performance | 12月25日(金) 19:00~

ご来場のお願い

○ご来場の際は、マスク着用などホールのガイドラインの沿った感染予防にご協力ください。ご対応頂けない場合は、入場をお断り致します。